

令和7年度 第1回 大槌町総合教育会議 議事録

開催日時

令和7年8月21日（木）午後3時から午後3時40分まで

開催場所

大槌町役場3階 大会議室

出席者

委員

- 町長 平野 公三
- 副町長 菊池 学
- 教育長 松橋 文明
- 教育委員 大萱生 都
- 教育委員 谷藤 怜美
- 教育委員 東梅 広美
- 教育委員 芳賀 新

事務局

- 総務課長 藤原 淳
- 企画財政課長 太田 和浩
- 地域整備課長 中野 智洋
- 学務課長 米沢 俊哉
- 総務課 課長補佐兼総務係長 祝田 潤昌
- 学務課 課長補佐兼大槌型教育推進係長 関谷 辰也
- 学務課大槌型教育推進係指導主事 金子 裕輔
- 学務課大槌型教育推進係指導主事 照井 善博
- 学務課主査 木村 佳円

議事要旨

1. 開会挨拶

2. 吉里吉里学園の施設一体化に関する事務局説明

米沢課長に続き、関谷課長補佐が説明を行った。

(1) 現状と課題認識

- ・吉里吉里学園は平成 24 年 4 月から小中一貫施設分離型で運営されている。
- ・児童生徒数は年々減少傾向にある。
- ・校舎は老朽化が進行しており、令和 3 年 3 月策定の「大槌町学校教育施設長寿命化計画」に基づき、長寿命化改修が必要な時期を迎えている。
- ・時代に合った学習環境の整備（例：洋式トイレの少なさ、特別教室のエアコン不足など）も必要とされている。
- ・中学部は築 30 年以上（平成 5 年建築）、小学部は築 20 年以上（平成 16 年建築）が経過している。

(2) 児童生徒数の見通し

- ・吉里吉里小中の児童生徒数の合計は、令和 7 年度の 99 人から令和 13 年度には 82 人に減少する見込み（17 人減）。
- ・小学部は令和 7 年度の 72 人から令和 13 年度には 50 人に減少（22 人減）、中学部は令和 7 年度の 27 人から令和 13 年度には 32 人に増加する見込み（5 人増）。
- ・今後も児童生徒数の減少は進むが、当面は全学年が完全複式学級にはならないと見込んでいる。

(3) PTA からの要望

- ・令和 6 年 10 月 3 日に吉里吉里学園 PTA から町長・教育長へ要望書が提出された。
- ・要望内容は、生徒数減少による中学部単独活動の限界、運動会・文化祭の小中合同開催の実績を踏まえ、今後は小学部の校舎での一体型教育が望ましいというもの。時期は児童生徒数の推移を見ながら地域と協議して決定したいとしている。

(4) 教育大綱について

- ・町は昨年度 300 人超との熟議を経て、今年 2 月に改訂版教育大綱「2050 年の大槌をつくる教育を『ともに』つくる」を公表しており、本案件もこれに沿って検討する必要がある。

(5) 施設一体化の場合の検討事項

ア 義務教育学校制度の導入

小学校と中学校の 9 年間を一貫した教育として捉え、中 1 ギャップの解消、教員の加配、小中教員の協働、9 年間の系統的な教育が可能となるメリットが期待される。

イ 小規模特認校制度の導入

通学区域に関わらず町内どこからでも入学可能とし、少人数教育の利点を活かしたきめ細やかな指導や、自然豊かな環境・地域教育資源を活用した特色ある活動が期待される。小中学生版「はま留学」の提案も挙がった。

(6) 地域住民懇談会の結果

- ・令和7年7月14日に開催され、参加者23名。施設一体化にはほぼ肯定的で、反対意見はなかった。早期の環境整備と先進的な施設への期待、移住促進や交流活性化を狙った小規模特認校制度活用（小中学生版「はま留学」）の提案があった。

(7) 保護者アンケートの結果

- ・回答率69%（61世帯中42世帯）。
- ・施設一体化に「賛成・肯定的」が81%（34人）。
- ・「その他」の主な理由として、人数が少ないことから大槌学園との一体化を希望する声があった。
- ・自由記載では、中1ギャップの必要性や現状維持、小学部への一体化が安全面・プール有無から妥当であること、保護者負担軽減のため早期一体化を望む意見などが挙がった。

(8) 教職員からの意見

- ・小学部教職員からは主に施設整備（空調、ネットワーク、個別対応教室、洋式トイレ増設、駐車場整備）の要望があった。
- ・中学部教職員からは「中学生が窮屈になるのでは」という不安があり、教室の増設や配置の工夫、中学校規格の設備・収納場所の確保、中学校の授業が不自由なくできるかの精査、現在よりも環境が良くなったと実感できる施設への期待が示された。

(9) コスト比較

- ・令和6年度から令和20年度までの15年間で試算。
- ・施設一体化した場合、中学部校舎を使わなくなるため、維持費で5,500万円の減額が見込まれる。
- ・改修費では、一体化した場合の1億4,000万円に対し、一体化しない場合は3億1,500万円と、1億7,500万円の差がある。
- ・合計すると、一体化する場合は15年間で約2億3,000万円のコスト削減効果があると試算された。

(10) 町の結論と施設整備基本方針

- ・今後の児童生徒数の減少等を総合的に判断し、小学部の施設に一体化する。

- ・施設一体化工事と同時に、長寿命化に係る工事を実施する。
- ・教育大綱の「2050年の大槌をつくる教育を『ともに』つくる」の実現に向け、義務教育学校制度と小規模特認校制度を活用しながら魅力的な教育環境を整備する。
- ・（一体化の理由）児童生徒数減少への対応、単独での行事開催の困難化。
- ・（小学部への一体化の理由）中学部より小学部の方が新しく健全度が高い（小学部：平成16年建築、中学部：平成5年建築）。また、中学部の場所が津波浸水想定エリア内にあるため、小学部の方が安全である。
- ・工事は原則改修に留めるが、授業に大きな影響が出る場合は新築・増築・改築も検討する。
- ・施設一体化工事と同時に長寿命化改修工事を実施することで、工期と費用の圧縮を図る。洋式トイレ、空調の増設、電灯LED化、防犯設備設置なども検討する。
- ・義務教育学校とする理由は、中1ギャップの解消、教職員の加配と小中職員の協働、9年間の系統的な教育が可能となるため。
- ・小規模特認校を導入する理由は、少人数での学びを希望する児童生徒のニーズに応える特色ある教育を行うため。

(11) 施設整備基本計画

ア 実施内容

令和7年度から保護者・教職員・地域代表者で構成する「吉里吉里学園施設一体化準備委員会」を設置し協議を進める。可能な限り早期に整備に取り組み、工事中は中学部校舎で小学部の授業ができるよう検討。学校施設環境改善交付金などの財政措置を図る。

イ 工事内容

普通教室・特別教室の部屋数確保、不要な壁の撤去、中学校規格の設備追加、収納設備、駐車場整備など（一体化工事）。

屋根・外壁改修、雨漏り修繕、亀裂補修など（長寿命化改修）。

洋式トイレ・空調増設、LED化、防犯設備設置など（その他工事）。

ウ スケジュール: 設計は令和8年初め頃から発注し、令和8年度中に実施。工事は令和9年9月頃から令和11年初め頃までを予定。令和10年度内に施設一体化完了を目指す。

エ 今後のスケジュール

- ・12月議会補正予算で設計費と「吉里吉里学園施設一体化準備委員会」の予算を計上予定。

- ・今年度中に「吉里吉里学園施設一体化準備委員会」を開催するため、組織作りを進める。

3. 質疑応答

(1) 大萱生委員

- ・吉里吉里学園の良好な教育環境を評価し、施設一体化により小中連携がさらにスムーズになること、児童の状況を身近に見られるようになることに期待を表明。
- ・少人数規模校の利点を活かした小規模特認校制度の導入は、不登校の子どもを持つ保護者にとっても安心につながるとして高く評価し、期待を寄せた。
- ・「教育関係人口」や「教育移住」の創出、保育園留学や小中学生の留学（高校の「はま留学」的施策）が人口増につながる可能性にも言及し、新たな展開への期待を述べた。
- ・「時代を見据え、子どもたちにとってより良い教育」の実現のため、町、教育関係者、地域が連携し、全国の取り組みを検討していくべきと提言した。

(2) 谷藤委員

- ・施設一体化に基本的に賛成の意向を示した。
- ・旧中学部校舎の利活用について、海が近い立地を活かし、交流施設、道の駅、あるいは寮のような施設など、様々な活用法があるとし、早めに検討を進め、建物が荒廃しないよう要望した。

(3) 東梅委員

- ・保護者説明会やアンケート調査など、丁寧な進行に評価を示した。
- ・近年の猛暑を受け、エアコン設置の要望と、洋式トイレの増設に加え、将来的な多目的トイレの必要性にも言及した。
- ・工事期間が3年間と長期にわたるため、周囲への理解と丁寧な説明を求めた。

(4) 芳賀委員

- ・芳賀委員はPTAとして施設一体化を要望しており、今回の進展に感謝の意を表明した。
- ・これまでの議論の中で大槌学園との一体化や中学部のみの合同化といった意見もあったことを述べ、「今いる子どもたちの環境が本当に良いもの」という視点を重視してきたと強調。
- ・施設一体化準備委員会のメンバー構成の重要性を訴え、現状のPTAだけでなく、保育園・こども園関係者、将来の子どもの保護者など、幅広い声が反映されるべきと提言した。

- ・教職員のストレス軽減のためのフォローアップを強く要望した。

(5) 事務局からの回答・補足

ア 米沢課長

- ・様々な評価への感謝を述べ、「今いる子どもたちにとっての環境」を第一に考えてきたことを再確認した。
- ・吉里吉里学園の一体化は教育大綱の「2050年の大槌をつくる教育を『ともにつくる』という方針に合致すると述べた。
- ・教職員へのフォローについては、施設の面も含め進めていくとした。

イ 中野課長

- ・工事スケジュールについて補足した。
- ・現在のスケジュールは設計が未完了のためあくまで案である。
- ・令和8年度に基本設計・実施設計を行い、令和9年度初めから発注準備。
- ・工事中は小学部の児童が中学部校舎へ一時的に引っ越す予定であり、中学部での受け入れ準備（空調など）が必要となる。
- ・5,000万円を超える大規模工事であるため、町議会の議決が必要となり、令和9年9月議会にかかる見込み。
- ・工事完了後の引っ越しは春休みまたは夏休みに行われるため、工事期間の短縮には限界がある。

ウ 松橋教育長

- ・多様な子どもたちがいる現状を踏まえ、大人数と少人数、双方の学校を残すのが現在の主流であるとの認識を示した。大槌町内に大小の魅力ある学校が生まれることで、交流人口の拡大や定住・移住にも繋がることを期待。
- ・一方的な進め方ではなく、多様な意見を聞きながらより良いものを作っていく姿勢を強調した。
- ・スケジュールについては、子どもたちへの影響を最小限に抑えつつ、必要な手続きも踏まえるため、ある程度の期間を要することを説明。
- ・2050年のシミュレーションでも完全複式学級にはならない見込みであり、しばらくは継続できると述べた。
- ・旧中学部校舎についても、今後様々な意見を聞きながら有効活用していく意向を示した。

(6) 町長のまとめ

- ・冒頭で委員からの意見に感謝した。

- ・施設一体化は地域で時間をかけてまとめられた案であることを十分承知していると述べた。
- ・地域の意見を踏まえながら、教育委員会として全体的に判断し「一体化した方が良い」という結論が出たことについて、その方向性を認めた。
- ・これから施設一体化準備委員会が立ち上がり、一体化について運営されていくという想定の中、施設一体化準備委員や町議員の方々に適時適切に説明を行っていく意向を示した。

4. その他

- ・委員からの質問・意見は特になく、事務局からも特になかった。

5. 閉会